

COP10先住民族ニュース No.3

発行日 2010年10月21日

発行 COP10先住民族ニュース取材班

本会議3日目(10月20日)

朝9時から先住民族の caucus (代表団総会) 昨日の各部会での議論内容と先住民族からの意見表明のポイントなどを報告しあう。とりわけ ABS 議定書交渉への対応をめぐって、議論白熱。10:20 散会、メンバーは各部会やサイドイベントへ散っていく

今日10月20日は、生物多様性条約事務局が「先住民族および地域共同体(ILC)の日」と定めており、朝9時から夜9時まで、先住民族と生物多様性にかかわるさまざまな会合やイベントがぎっしり組まれています。冒頭、アイヌ民族によるカムイノミがおこなわれました。(HK)

11:30 から 「環境適応と伝統的知識」

11:35-12:50 シンポジウム「環境適応と伝統知識(Adaptation and Traditional Knowledge)」

13:25-14:40 「国連大学高等研究所 伝統知識イニシャチブ」

15:00-16:20 「コミュニティ・レベルでの能力形成」

16:40-17:50 「能力形成の実践」

18.15-20.00 「先住民族に関連する指標」

ILCの日関連イベント(10/20)

1) ミニシンポ: 保護区における先住民族との共同管理
IIFB のアダム(マー民族、いわゆるマサイ、タンザニア)とブラサート(カレン民族、タイ)がプレゼン。約40名が参加。さかんに質問が出る。国家による自然保護区の設定ゆえに生じる問題あれこれ。サバンナの場合と森林の場合での違いもあるが、保護区の共同管理や意志決定のしくみにおいて認められている先住民族の権利の度合い、それに参画していく先住民族側の権利意識の違いが大きな要因。「保護区での先住民族の居住や活動が制限されるとしても共同管理への参加を受容するのか」という鋭い質問が出る。

さきほどの率直な質問をしたのも IIFB のメンバー。ブラサートさんは先住民族側の権利意識の温度差を高い方にむけて育てていくことを試みていると返答。IIFB メンバーのバーニーさん(マレーシア、サバ州)はマレーシアでの共同管理の事例を紹介。

国立公園の共同管理には、国家の環境法(国立公園法など)の枠内で意志決定をしていく側面と、その前提となっている土地権原(タイトル)の認定や公園内の先住民族居住者の慣習権をあらたに法律で認定していく側面、その両方の面がある。ブラサートさん。

国家は(先住民族であろうとなかろうと)国民を支配・管理する志向があるので、自然保護において人々に決定権を完全に委譲することはないだろう。自然保護に真剣に取り組む「よい国家」が誕生したとしても、この本質は変わらないと見て、取り組まないといけない。ブラサートさん。(HK)

2) ミニシンポ: 環境適応と伝統知識

最初の話し手は、デニス・マルチネスさん。米国ワシントン州やカリフォルニア州北部の自然保護区で長年フィールドオフィサー。気候変動などの自然変化についての西洋科学の見方と伝統知識の見方について。

鹿の数の変動、西洋の定量科学での予測は精密な手法でおこなわれるが、結局はずれてばかりきた。科学はつねに予測できない要素を含むのが特色。伝統知識(TK)はミステリーも含むという意味で科学を包含するもの。(右上

(一部省略)

続き / 最後の話し手、サガリ・ラムダスさん(インド先住民族アディヴァシの女性)。アディヴァシのTKは居住地域の季節循環と不可分、知識は実践により次世代に伝えられる。ダムや鉱山開発などによりアディヴァシが土地を追われると知識を実践する場が失われる。TKを守るには実践の場を守る。

TKの実践は変化への適応の連続。適応すること自体がTKの本質。先住民族の適応と生存は、先住民族自身はぐくんできた文化から内発する方法によらなければならない。アディヴァシは土地を読む、土を読む、水を読む、鳥を読む、ムシを読む、空を読む、星を読む。

政府は「社会的林業」などを持ち込み、ジェンダー平等の名目でアディヴァシ女性を事業に巻き込むが、固定的なメニューでは女性をかえって周辺化させ、変化への適応力を奪うことになりかねない。季節性と共同分配という文化価値にもとづく先住民族自身の解決策を政府の一律的な事業が損なう。(HK)

インフォメーション

IIFB 主催のサイド・イベント

「農業生物多様性と食の安全保障に関する先住民族の知恵 INDIGENOUS WISDOM FOR AGROBIODIVERSITY AND FOOD SECURITY」

日時: 2010年10月21日(木)

場所: CENTURY HALL - Bldg 1 - 1st Floor

COP10 先住民族ニュース取材班

ブログ記事を整理したものです。

COP10 開催期間中の連絡先: 第二ビル 234 ルーム

詳細は <http://indigenouset.net.blog75.fc2.com/>